

DMAT 隊員養成研修

「実習 現場救護所における診療」

現場救護所での治療

- 1, 治療の目的は、傷病者を安全に病院まで到着させるための安定化処置（具体的には、ABC の蘇生が中心）であって根本治療ではない。
- 2, トリアージ後の患者に対して、「蘇生治療の要否確認と蘇生の実施」「搬送のための安定化処置」を行う。
- 3, JATEC™（外傷初期診療ガイドライン）に沿った医療活動が展開されることが基本で、特に Primary Survey に相当する診療が中心。

● 使用可能資器材

☆モニター（心電図、SpO2）：複数の患者に転用することになる

☆血圧計、携帯用超音波

現場では放射線検査は不可能→X線検査抜き、JATEC の展開（特に Primary survey）をイメージ

● 医療資源に制約がある

☆酸素、頸椎カラー、輸液、気管挿管チューブ、シーネ、胸腔ドレーンバッグ等

4, Primary survey の手順

● 第一印象は、トリアージタックの確認で代用も可能

● A、B の評価・蘇生には、大きな変更なし

☆胸部X線不可であるが、血胸の評価はFASTで代用

☆3辺テーピングなどの処置も採用

● Cに、異常を認める場合の原因検索に変更あり

☆用手的骨盤動揺性確認を容認（トリアージでの実施の有無を確認する）

☆腹部所見も実施（腹膜刺激症状は、緊急搬送の適応）

☆両側大腿部触診も実施（ショックの原因としての両側大腿骨骨折）

☆FASTによる出血源検索は、現場で実施可能なCの蘇生治療の鑑別

☆緊張性気胸→緊急脱気・胸腔ドレナージ

☆心タンポナーデ→心嚢穿刺

☆骨盤骨折→シーツラッピングが有用な場合もある。

● D の評価は変更なし

☆意識評価（GCS）と瞳孔所見

● E の評価

☆病院内とは異なり完全な脱衣は不可能。可能な範囲で全身観察。

●Cr の評価

- ☆ 受傷機序の把握が重要（初期には必ずしも身体所見に反映されない）
- ☆ 四肢末梢神経異常に注意
- ☆ 尿所見

5、パッケージング準備

JATEC の Primary survey に引き続き、Secondary Survey に相当することは不要。緊急搬送が直ぐに行える状況を作る。

- ☆ 頸椎・頸髄損傷を示唆する所見のチェックと必要時に頸椎カラー装着
- ☆ 四肢骨折確認とシーネ固定
- ☆ 四肢の神経チェック

【パッケージングの具体】

ABC の確認

- ☆ A：確実な気道確保
- ☆ B：適切な換気
- ☆ C：安定した循環 or 輸液の継続/シーツラッピング
- ☆ 行った処置の確認

傷病者固定等

- ☆ 最低限の鎮痛薬使用
- ☆ 脊椎保護（必要に応じて、全脊柱固定）
- ☆ 副子固定

6、搬送トリアージ

搬送優先順位の決定

災害の種類、病態、交通事情・道路事情、搬送手段、パッケージング完了、医療機関の被災状況などを総合的に判断

7. 診断、処置内容をトリアージタグに記入